

## 南鳥島の小笠原村独自の事前調査実施についての要望書

2026年4月9日

小笠原村村長  
渋谷 正昭 殿

特定非営利活動法人 小笠原自然文化研究所

### 南鳥島の小笠原村独自の事前調査実施についての要望

日頃より、小笠原の環境保全及び、人と自然の共生にご尽力頂き心より感謝いたします。

さて、2026年3月に、政府から小笠原村へ高レベル核廃棄物の最終処分場建設検討のための第1段階である文献調査実施の申し入れがありました。まず、同調査の受け入れの可否については、丁寧で時間をかけたプロセスが重要と考えます。千年、万年単位の未来の入口となる議論には、最短でも年単位の議論が必要と考えます。また、文献調査の実施体制としては、経産省やNUMOの選定に拠らない第三者を含む客観性のある主体の参画が不可欠であり、調査項目、評価手法、概略調査への移行手続きについての事前協議が必要と考えます。

ただし、現時点では、文献調査の受け入れの是非を話合う前に、南鳥島の知見・情報が絶対的に不足しています。住民が受け入れについて考え、話し合い、判断するためには、与えられる説明だけに依存せず、自らが南鳥島を調べ、知り、理解し、地域の考えを育む姿勢と時間が必要です。

私達は、文献調査に先立ち、小笠原村が同地域を対象とする多様な調査を実施して、結果を住民と共有し、話し合うべき南鳥島の情報を得ることが大切だと考え、同調査の実施を要望します。なお、私達は、南鳥島の自然環境や風土等を調べることについて、協力を惜しみません。

### 南鳥島についての小笠原自然文化研究所の考え方

南鳥島は、洋上にちらばる小笠原諸島においても、もっとも隔絶している故に、情報の非常に少ない島嶼のひとつです。しかしながら、過去の数少ない知見から、小笠原固有種ミズタマヤッコが発見された場所であることや、トゲミウドノキの国内唯一の生息地とあることがわかります。また、日本唯一のシロアジサシの繁殖地であり、希少な南方系海鳥の集団繁殖地として国指定鳥獣保護区に指定されています。陸域の生態系は第2次世界大戦などの人間活動で大きく損傷しましたが、現在は回復期にあり、近い将来日本の海鳥の種多様性を下支えする島となることが期待されます。情報が少ないながら、南鳥島は十分に保全価値のある島嶼であると考えます。また、生物地理学の観点から、洋上に孤立した南鳥島は、多くの海洋生物にとって不可欠なステップストーンとなっている可能性があります。小笠原自然文化研究所では、小笠原諸島をかたちづくる重要なピースである南鳥島の自然環境が、高レベル核廃棄物の最終処分場建設等の理由で損なわれる可能性を強く憂慮しています。一方で、過去60年来、国内のエネルギーの一端を原子力で賄ってきた日本で、最終処分場を含む、原子力利用の課題は、小笠原島民はじめ、全国民で考える事柄だと考えます。そして、小笠原でこの問題に向き合うためには、小笠原村民自らが、南鳥島のことを自ら知る必要があります。地域主体の調査の実現についてご検討頂ければ幸いです。

<別添資料> 南鳥島の自然生態系に関する情報(作成作業中) 小笠原自然文化研究所

## 1. 自然生態系に関する価値

### ○国内唯一の海鳥繁殖地

- ・シロアジサシ *Gygis alba* の国内唯一の繁殖地

### ○絶滅危惧種の海鳥繁殖地

- ・コアホウドリ *Diomedea immutabilis* (環境省レッドリスト 2026: EN)の繁殖地
- ・アカオネットアイチョウ *Phaethon rubricauda* (環境省レッドリスト 2026: VU)の繁殖地
- ・アカアシカツオドリ *Sula sula* (環境省レッドリスト 2026: VU)の巣材運び行動記録

### ○海鳥の主要な繁殖地

- ・ヒメクロアジサシ *Anous minutus* の国内最大の繁殖地
- ・セグロアジサシ *Onychoprion fuscatus* の主要な繁殖地

### ○固有海産魚類の生息地

- ・ミズタマヤッコ *Genicanthus takeuchii* の生息地(小笠原諸島固有種)  
(環境省海洋生物レッドリスト 2017: DD)
- ・ヤセタマカエルウオ *Alticus orientalis* の生息地(伊豆・小笠原諸島固有種)

### ○絶滅危惧種の甲殻類の生息地

- ・サキシマオカヤドカリ *Coenobita perlatus* (環境省レッドリスト 2020: VU)の生息地

### ○国内唯一の植物自生地

- ・国内唯一のトゲミウドノキ *Pisonia grandis* の自生地

### ○生物地理学的価値

- ・南鳥島は日本で唯一太平洋プレート上に存在する島で、ハワイ諸島が属する中部太平洋区という沿岸海洋生物地理区に属するため、国内では他に類を見ない生物相(サンゴ礁生物群集等)が成立している可能性がある。

### ○自然環境保護政策

- ・国指定鳥獣保護区(2009～)

## 2. 参考文献

Bryan, WA (1903) A monograph of Marcus Island. *Occasional Papers of Bernice P. Bishop Museum* 2(1): 77-126.

Bryan, WA & Herre, AW (1903) Annotated list of the Marcus Island fishes. *Occasional Papers of Bernice P. Bishop Museum* 2(1): 126-139.

土生 昶毅 (2001) 火山列島および南鳥島のミカンコミバエ侵入警戒調査. 植物防疫

- 55(4): 40-42.
- 環境省関東地方環境事務所 (2011) 国指定南鳥島鳥獣保護区保護管理マスタープラン.  
環境省関東地方環境事務所, 5p.
- 河原 恭一 (1993) 南鳥島における鳥類の観察記録. *Strix* 12: 243-247.
- 川上 和人 (2017) 小笠原諸島南鳥島の鳥類相. *Strix* 33: 131-143.
- 川上 和人・鈴木 啓容・原田 幸典 (2024) 小笠原諸島南鳥島における海鳥相の変化. 日本鳥学会誌 73(2): 195-206.
- 気象庁海洋気象部 (1979) 小笠原気象観測業務 10 年誌—再開 10 年を記念して—. 気象庁海洋気象部, 121p.
- 小林 さやか・加藤 克 (2022) 明治期の南鳥島産鳥類標本の情報復元. 山階鳥学誌 54: 103-139.
- Konishi, M (1955) Cossoninae of Marcus Island (Col., Curculionidae). *Insecta Matsumurana* 19(1-2): 64.
- 倉田 洋二 (1987) オカヤドカリについての二, 三の知見. 東京都教育委員会 (編) 小笠原諸島オカヤドカリ生息状況調査報告. 東京都教育庁社会教育部文化課, 94-97.
- Kuroda, N (1954) Report on the trip to Marcus Island with notes on the birds. *Pacific Science* 8: 84-93.
- 長岡 信治 (1987) 南鳥島および沖ノ鳥島の地形と地質. 11: 88-95.
- 西村 和久 (1992) 小笠原諸島の貝IV南鳥島・沖の鳥島. *ちりぼたん* 22(4): 83-87.
- Pyle, RL 1997. A new angelfish of the genus *Genicanthus* (Perciformes: Pomacanthidae) from the Ogasawara Islands and Minami Tori Shima (Marcus Island). *Rvue française Aquariologie* 24(3-4): 87-92.
- 坂上 昭一 (1953) マーカス島に旅して. *新昆虫* 6(5): 23-29.
- Sakagami, SF (1961) An ecological perspective of Marcus Island, with special reference to land animals. *Pacific Science* 15: 82-104.
- Springer, VG (1982) *Pacific Plate biogeography, with special reference to shorefishes*. Smithsonian Institution Press, 182p.
- 天外 生 (1902) 南鳥島航海日記. 14(10): 683-690.
- Tsuda, RT (1968) Some marine benthic algae from Marcus Island, Bonin Islands. *Micronesica* 4(2): 207-212.
- 津山 尚 (1938) 南鳥島産の植物. *植物研究雑誌* 14(6): 425-426.
- 津山 尚 (1938) 南鳥島産の植物の補遺. *植物研究雑誌* 14(8): 554.
- 斉藤 洪成・村瀬 敦宣 (2024) 東京大学総合研究博物館所蔵標本に基づく南鳥島からのヤセタマカエルウオの記録. *Ichthy* 46: 31-33.
- 矢部 吉禎 (1902) 南鳥島産植物. *植物学雑誌* 16: 258.
- 米内 金治 (1996) 『鳥を釣った話—父島・南鳥島気象観測所長の思い出』翰林書房, 132p.
- 吉田 弟彦 (1902) 南鳥島の視察. *地質学雑誌* 14(166): 674-678.